

平成29年度 事業成果報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

1. 地雷処理支援事業全般成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、村人参加型の地雷探知チーム5名により、バットアンバン州のカムリエン郡、プノンプラ郡、サンパウルー郡、及びパイリン州内の3村6箇所の地雷原を探知し、約26ヘクタール(累計約176ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。() 数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷69個(407個) 対戦車地雷23個(157個)
- (2) 処理した不発弾 : 226個(885個)
- (3) 処理した面積 : 261,703平方メートル(1,771,452平方メートル)

2. 地域復興支援事業等全般成果実績

IMCCD日本語学校1日約40～50名、車椅子20台(180台)、日本企業の支援5社、芋焼酎地場産業の発展指導、邦人訪問見学者127名(累計699名)の受入れ、その他文房具の寄贈など、支援者との仲介活動により、地域の復興支援を実施した。

詳細は、以下の9事業である。

(1) 相互の友好交流を促進する事業

元バットアンバン州知事、前バットアンバン州副知事を日本に招へいし、愛媛県知事への表敬訪問、県民との友好交流を図った。小学校1棟をご寄贈くださった大阪船場ロータリークラブ会員7名の皆さんがタサエン地区を訪問され友好交流を図った。愛媛県知事、愛媛県経済ミッション視察団がプノンペンを訪問されカンボジア政府副首相や労働大臣等と会談、交流されIMCCDとしてこれらに同席した。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 道路整備

タサエン地区デクロホーム村の道路整備について、タサエンコミューン長等から相談があり、約3Kmの道路整備を村民の寄付や日本企業の寄付で整備した。

イ 井戸掘削

井戸3基(No. 33、No. 34、No. 35)完成。
No. 36、No. 37着工待ち。

(3) 農業の発展を支援する事業

現カンボジア政府のアドバイザーであるプラチャン閣下の100ヘクタールの竜眼畑を試験畑として肥料の開発試験を実施中。(株)愛亀の西山社長や、当会副理事長の栗田社長等によってご指導を受けている。栗田社長からは、肥料に関する基礎知識について詳しく伝授していただいた。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられる。芋は安値で隣国タイに売られていたので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋焼酎の開発を2008年から始めた。松山市の酒造メーカーで当会顧問の篠原会長のアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。バタンバン州知事によって「ソラークマエ（カンボジアの酒という意味）」と命名され、現在カンボジアのプノンペン空港やシエムリアップ空港、世界の免税店でもあるTギャラリアやその他国内で販売されている。また、愛媛の今治市にある㈱今治デパート様が輸入し、6月5日から販売を開始したが、追走品が検疫（シアン）で合格できず、品質改良をし近日中に再挑戦する予定。更に、サトウキビでラム酒の製造にも着手し、現在アメリカでの販売を調整中である。更には、来年1月にパリで開催される展示会に出展を予定している。また、村民の畑で栽培されているレモングラスを蒸留して精油を採取したところ、品質のいいレモングラスオイルの製品化に成功した。今後、日本などにも輸出する予定。これらの活動は、現地法人 **KHMER JYORYU Co.,LTD**（クマエ蒸留株式会社 社長 **Mr.ソックミエン**）によって地場産業の発展を促進している。4月のカンボジア正月の各国大使館35カ国へのカンボジア政府からの贈り物として、今回はソラークマエ焼酎が選ばれ4月14日の正月元旦にはそれぞれの大使館に贈られた。

(5) 日系企業の誘致を支援する事業

2008年に1社、2011年に2社、2014年に1社、計4社四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致した。更にカンボジアで活動している松山市、伊予市、今治市の会社の支援を行っている。今後も、企業活動と村の発展に直接貢献できる活動を模索しながら実施していくことになる。上記タサエン地区に3社（JPC、スギウラ、やまと）カムリエン地区に1社（キンセイ）、クマエ蒸留 Co,LTD そしてIMCCDで構成しているCJIP（カンボジアジャパンインダストリアルパーク）は、6団体の友好交流と、情報交換、村との繋がりを促進するため活動している。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

小学校2校（No.11 大阪船場スクール、No.12 うつみスクール）が完成。建設中の幼稚園1校、小学校1校（No.13 カンボジアに学校を作る会、No.14 大塚忠小学校）が5月、6月に完成予定。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生・技能実習生の支援

青森県八戸市の高校にタサエンコミュン出身のタン・チエンターを2010年3月から留学、2013年3月卒業し、同年4月から松山東雲女子大学に進学させていたが2017年3月無事卒業した。4月から愛媛県今治市にある㈱ありがとうサービスに就職したが、一身上の都合により退社し、関西方面に再就職した。2013年11月タサエンコミュン出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2017年3月無事卒業した。昨年4月から松山東雲女子大学に進学し現在2年生。また、八戸市の高校にタサエンの女子高校生ダエンナを短期留学として受け入れていただき、日本での生活や勉学を体験した（累計4人目）。今

季から IMCCD 日本語学校の生徒 4 名を技能実習生として、日本に送り昨年 11 月から今治市内のスーパーマーケットで実習中である。更に、宇和島市内の会社に技能実習生として来ているカンボジア人女性 15 名について、会社と連携しながら服務指導などアドバイスを実施している。

イ 建設技術の習得支援

松山市の憐愛亀にカンボジア人男性を就職させ、服務指導など会社と連携して実施している。

ウ IMCCD 日本語学校

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、技能実習生として日本で実習しながら自立発展する機会を得る。また通訳など日本語で職業に就くように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学 2 名、プノンペン大学の日本語学科へ 7 名、プノンペンの日本語学校へ 7 名入れている。更に、八戸市の高校に短期留学生としてこれまで 4 名を受け入れていただいた。日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約 40 名、パソコン教室が約 10 名である。2014 年 5 月には、カンボジア政府から「日本語学校」として認定された。

エ 技能実習生

日本語学校で日本語を勉強していた村のラックサー（20 才）、キムリーン（22 才）、スレイオン（22 才）、ラキナー（19 才）の女性 4 名を技能実習制度を活用して日本に 3 年間行かせた。現在、愛媛の今治市にあるスーパーマーケットで 4 人が実習している。更に、IMCCD 日本語学校で勉強している生徒のうち 18 才以上の生徒は今年にも技能実習生として日本に行きたい旨希望している。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

小学校、中学校、高校、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストなどでの講演を 30 回、少人数での交流会を 5 回、計 35 回実施した。（累計 363 回）最近では、テレビ、新聞などの報道が全国的になり、講演なども全国的な活動になってきている。

イ 写真パネル展示

イベントの開催、会社、学校、講演会などでの掲示を実施し広報した。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

127 名（延べ 699 名）の邦人が活動地タサエン地区を訪問し、地雷処理活動や村の様子を見学した。特に大学生のスタディーツアーが 60% を占め、地雷処理という戦後処理を行いながら平和を回復した村人との触れ合いの中から「心の豊かさとは」、「人の幸せとは」何かについて認識を深めていた。

(9) 広報に関する事業

ア 新リーフレットを逐次に活用するとともに、機関紙「カンボジア便り」を11月と5月に作成、配布し広く支援者などに活動を広報している。

更に、日本国内における広報活動は、一時帰国の約1ヵ月間を活用し、帰国月平均テレビ2～3回、ラジオ1回、新聞3～4回、講演9回、交流会などを実施した。

特に、テレビ朝日の「報道ステーション」や、愛媛のNHK、南海放送TV、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビなどでIMCCDの活動の一端が放送された。

また、愛媛県内に八幡浜分会、新居浜分会に続き、今治分会、四国中央分会を設置した。更に、全国都道府県に群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部に続き、愛知支部を設置し、また静岡支部を検討中である。海外では、カンボジアのバタンバン支部、シエムリアップ支部、タイにバンコク支部を設置している。

また、東京の青年がタサエンを訪問し、ドキュメンタリー映画「地雷ときどき僕」を発表。全国で映画会を催しており、この6月からは映画配信会社がその放映権を取得し逐次全国の映画館で放映される予定である。4月のNHKWORLDの放送に続き、9月または10月テレビ朝日系で放送するための取材が予定されている。

イ 表彰等

今季はなし。

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房—
『平和の種になりたい』—IMCCD—

以上